

下北地区統合校に関する説明会（第3回） 概要

- 1 日時 令和7年7月28日（月）18：00～19：00
- 2 場所 プラザホテルむつ プラザホール
- 3 参加者 49名

4 説明内容

（県教育委員会）

「1 前回の説明会でいただいた御意見等への考え」について、開校時期に関して「なぜ令和9年4月に開校するのか。新校舎の完成まで開校時期を先延ばしするべきではないか。」という御意見をいただいたので、県教育委員会としての考えを御説明する。

第2期実施計画では、下北地区は中学校卒業生数の更なる減少により、当該計画期間中に2学級の削減が必要な状況にあり、統合せず学級減で対応した場合、高校の更なる小規模化が進むことから、充実した教育環境を整備するためにも統合が必要と判断した。

参考として、実施計画に掲載している表を抜粋しているが、本計画を策定した令和3年時点で、下北地区の中学校卒業生数は、令和5年から令和9年の5年間で102人減少する見込みであり、最新の数値で確認しても変更はなかった。

開校時期を先延ばしし、学級減で対応することとした場合、大湊高校、むつ工業高校の更なる小規模化が進み両校の教育活動に支障を生ずる懸念がある。

このような懸念に対し、統合により生徒数や教職員数が確保されることで、幅広い進路選択に対応できる教科・科目の開設や特別活動等の充実、多様な部活動の選択肢の確保などが可能となり、高校段階で身に付ける「確かな学力」、「逞しい心」、「学校から社会への円滑な移行に必要な力」等を育成できる教育環境が整備されるものと考えている。

また、総合学科と工業科それぞれの特長を生かしながら、連携した取組を進めることで、キャリア教育が一層充実し、より幅広い生徒のニーズへ対応することができる。

加えて、今回の入札中止という結果を踏まえ、統合校における教育活動等に使用する施設についてシミュレーションした。

具体的には、統合校での開設が見込まれる美術・書道といった芸術科目や総合学科の実習において使用する教室をむつ工業高校の既存校舎の中で確保できるかということについて検討した。

その結果、既存校舎においても、一部の教室等を転用改修することで、統合校で予定している教育活動に対応できることを確認することができた。

以上のことを踏まえ、統合による望ましい教育環境を可能な限り早期に提供するため、予定どおり令和9年4月に開校したいと考えているものである。

「2 施設整備方針の決定に向けて」について、前回の説明会において県教育委員会が示した施設整備方針案に対し、参加者から「整備内容、スケジュールともに現実的で最善だ」といった複数の肯定的な発言をいただいた。

本日の説明会を経て、リニューアル改修を軸とした案を施設整備方針として決定したいと考えている。

「3 情報発信」について、県教育委員会のホームページにおいて、開設準備委員会や施設整備方針（計画）案に係る説明会などの内容を掲載している。引き続き、適時に情報を更新し、統合校の開校に向けた取組について発信していく。

このほか、中学生に対し、関係市町村や中学校長会等の協力を得ながら情報を周知するとともに、大湊高校、むつ工業高校の在校生に対しても学校長と相談しながら対応していきたいと考えている。

5 質疑等の内容

○ 県教育委員会が提示した案が現実的であるが、私の本心はあくまで新築。しかし、既に中学2年生は進路指導が始まっており、中学3年生に関しては大湊高校がなくなる前提で進路を考えているということも踏まえれば、新築をこれ以上要望することはなかなか難しいと承知している。前回の説明会では、実習棟を一部改修するが全部をリニューアルするわけではないとのことだったが、実習棟もきちんと新築同様に改修して初めて校舎の問題が解決すると思う。B-2案で進めるのであれば、外装や設備の改修後でもよいので、それ以外の部分に関する実習棟の改修も行ってほしい。第1回の説明会で、「これは失敗だ」という市民の意見もあったが、失敗のままで終わってしまえば、この先禍根を残すことになりかねないので、ぜひ実現してほしい。

→（県教育委員会）既存校舎のリニューアル改修後、新校舎を実習棟等に改修していくことになるが、その中で既存の実習棟のあり方も含めて検討していきたいと考えている。

○ さきほど失敗という発言があったが、入札不調となったことですでに失敗ということ。1回生が3年次の時に本当に新校舎に入れるのか。今後、スケジュールどおり進まなかった場合、どうするのか。

→（県教育委員会）将来のことであり必ず大丈夫とは言えないが、入札中止の可能性が少なく確実性が高いという考えのもと提案したのがB-2案。

○ 統合せずに学級減で対応した場合、大湊高校、むつ工業高校のさらなる小規模化が進み、両校の教育活動に支障を生ずる懸念があるとのことだが、支障について具体的に示してほしい。

→（県教育委員会）学校規模が小さくなることにより、開設できる科目が限られることがある。例えば、理科における物理、化学、生物、地学のうち、大規模校では全ての科目の授業を開設できるが、小規模校では生物や物理しか開設できないといったことが考えられる。また、生徒数が多いことで特別活動の充実や部活動における選択肢の確保を図ることができる。このように、統合により教育活動を広げていきたいと考えている。

○ 今回の入札不調をきっかけに、統合の先延ばしについて議論できないのか。

→（県教育委員会）総合学科と工業科を統合し、両科が連携することで学びの幅を広げたいと考えている。本来であれば新校舎が完成した状態で開校できるのが理想であったが、学びについては既存校舎で十分に確保できると判断し、令和9年4月の開校を目指したいと考えている。

○ 統合校における教育活動等に使用する施設についてシミュレーションした結果、既存校舎においても、一部改修することで、統合校で予定している教育活動に対応できることを確認したとのことだが、具体的にどのようなシミュレーションをしたのか。

→（県教育委員会）現在のむつ工業高校の校舎について、美術や書道の教室、総合学科の実習に必要な教室を十分に確保できるか確認した。

○ 統合により、高校段階で身に付ける「確かな学力」、「逞しい心」や「学校から社会への円滑な移行に必要な力」等を育成できる教育環境が整備されるとのことだが、統合しなくても必要なことではないか。

→（県教育委員会）今回の統合は、総合学科と工業科という異なる学科を併置するものであり、それぞれ単独の学校では学ぶことができなかった内容に触れる機会が生まれ、生徒が一つの学校で共に学ぶことで、これまでにはなかったような逞しきや多様な価値観が育まれ、教育活動がより発展的なものになると考えている。

○ 令和9年4月に既存校舎で開校しても、統合校としての教育環境等を本当に提供できるのか。

→（県教育委員会）既存のむつ工業高校の校舎において不足している書道、美術の教室、総合学科の2年次以降に必要な実習教室について、確保可能であることを確認済みであり、これらを踏まえて令和9年4月開校は可能であると判断している。

- 令和9年4月に開校するメリット、または開校時期を延期させることによるデメリットについて聞きたい。
- (県教育委員会) 令和9年4月に大湊高校とむつ工業高校を統合することが地域の中学生、保護者、学校関係者にも周知されている状況であり、仮に開校時期を延期すれば、進路を見据えて準備を進めてきた子どもたちや指導に当たる学校の先生方に不安を生じさせる可能性があるため、予定どおり令和9年4月開校とすることで、子どもたちの進路選択を確実に担保することが大切だと考えている。

- 現状を踏まえると、仮に開校を2、3年延ばしても状況は今より悪化する可能性もあると思う。下北地域におけるすべての高校で定員割れが生じており、統合しないまま、こどもの数がさらに減れば学習活動にも支障が生じる懸念がある。反対意見があることも理解しているが、既に統合校への入学を目指し、夢に向かって歩み出している生徒もいることを考えると、予定どおり令和9年4月の開校が望ましいと考える。ただし、最も大事なものは、その学校で学ぶ子どもたちの教育環境であることから、今回説明した整備内容や開校時期を変更することなく、責任を持って確実に実行してほしい。また、統合前の大湊高校、むつ工業高校の生徒に対しても、引き続き責任を持った対応をお願いしたい。

- 私も現状では、一部新校舎を建設し、既存校舎をリニューアル改修し使用する案がベターではないかと思う。設計・施工一括方式が入札不調のリスクが少なく、校舎の整備が着実に進むとのことだが、発注はどのような業者を想定しているのか。
- (県教育委員会) 設計・施工一括方式を採用する理由は、先般の入札不調を踏まえたもの。設計は完了していたものの施工業者がいなかったことから、設計段階から設計者と施工業者が一緒になって学校づくりを進める形を取ることで、入札不調を防げるのではないかと考えている。また、前回の入札はWTO案件(海外の企業にも入札参加が認められる案件)に該当し、県外業者が代表JV(共同企業体)となる必要がある条件であったため、今回は県内の設計業者や地元建設業者に力を借りながら進めていくことができれば良いのではないかと考えている。
- 一方、改修工事については従来どおり設計と施工を分離する。改修は、既存校舎の状況を十分に確認しながら設計する必要があり、設計後に発注する方が現実的である。改修工事は新築よりも工事規模が小さく、金額も低くなるため、入札不調リスクはより低いと見込んでいる。

- 今後、再度の入札不調によって整備計画や開校時期を変更し、子どもたちや地域に混乱を生じさせることのないよう、着実に事業を進めてほしい。

- 県教育委員会のB-2案において、むつ市設置の下北地区統合校検討委員会の要望、子どもや地域が望む学びを確保する校舎を整備することができるか。
→ (県教育委員会) 新校舎は、まずは教室棟として整備し、全校生徒を収容した上で、既存の普通教室棟のリニューアル改修が完了後に、改修を行うことを想定している。この新校舎は約2,000平方メートル(高校の体育館2棟分に相当する広さ)あるため、将来的には実習施設やオープンスペース等として転用することが可能であり、学校や地域からの要望を踏まえて柔軟に転用改修を行うことを考えている。

- 子どもたちがその校舎で夢や希望を叶えられるような学びを受け、充実した学校生活を送ることができるよう、県教育委員会は責任をもって取り組んでほしい。

- グラウンドを改修する予定はあるのか。
→ (県教育委員会) 今回の改修に当たり、工事期間中の安全確保のため、野球場には高めの防球ネットを設置し、野球部の活動に支障が出ないように対応する。サッカー場及びテニスコートについては、現状の活動に影響がないよう維持する予定。今後、大湊高校における部活動が加わる場合には、整備を再検討することとしている。現行と異なる使用形態が想定される場合は、その都度、見直しを行う。現段階では、むつ工業高校の活動に配慮した形で整備を進める方向で考えている。

- グラウンドの土の入替えや芝生の張替えは予定しているか。
→ (県教育委員会) 現時点ではそこまでの検討を行っていないが、今後、安全面を踏まえて必要に応じて検討していく。

- 大湊高校の総合学科では、進学や進路に応じて何十種類もの選択科目があり、生徒はクラスルームだけでなく選択科目ごとに移動して授業を受けているため、統合後においても現在のような選択授業を開設できる教室数を確保できるのか。
→ (県教育委員会) 現在のむつ工業高校の教室棟は、5学級規模で整備されているため、統合後に総合学科3学級、工業科2学級の計5学級体制となっても、教室数は確保できている。また、不足している芸術科目の教室については、既存の部屋の転用により対応する。総合学科における実習で使用する選択教室についても、間仕切りなどを用いて確保できることも確認している。

- 子どもたちがきちんと学べるカリキュラムを組んでほしい。